

第5回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

公の施設等について
～個別施設の現状と課題、その対応方針～

筑波海軍航空隊記念館（営業戦略部）

令和5年12月21日（木）

○施設名 筑波海軍航空隊記念館

1 現状

(1) 施設の概要

- 筑波海軍航空隊記念館は、歴史への理解を深め世界の恒久的平和の実現に役立てるとともに、地域の教育及び文化の向上並びに地域振興を目的に設置し、戦争の記憶を語り継ぐ施設としての役割を担っている。
- 筑波海軍航空隊記念館は、旧司令部庁舎（旧管理棟^{※1}）と展示館（旧検査棟^{※2}）で構成され、旧司令部庁舎は、笠間市の文化財として指定されている。（平成30年12月指定）

所在地	笠間市旭町 654 番地
開業年月	平成 30 年 6 月
施設概要	旧司令部庁舎(旧管理棟)：施設敷地 1,850 m ² 、鉄骨鉄筋コンクリート造 3 階建（延床面積：1,684.86 m ² ） 展示館(旧検査棟)：施設敷地 1,092 m ² 、鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建（延床面積：573.59 m ² ）
設置理由	歴史への理解を深め世界の恒久的平和の実現に役立てるとともに地域の教育及び文化の向上並びに地域振興を図るため
利用料金	個人：大人 500 円、小人 300 円 団体（20 名以上）：大人 400 円、小人 240 円、特別展は別途設定

※1 旧管理棟：旧筑波海軍航空隊司令部庁舎を、筑波海軍航空隊の解隊後、茨城県が病院の管理棟として利用した施設。現在、「旧司令部庁舎」として一般に公開。

※2 旧検査棟：茨城県が病院の検査棟として建設した施設。現在、資料等の展示館として改装し活用。

(2) 管理手法 ※令和5年7月1日時点

- 平成30年度より茨城県から笠間市へ無償で貸付けを行い、歴史的な遺構として将来にわたって活用を図るため、市が指定管理者制度により施設を運営している。

相手方	笠間市
契約形態	公有財産使用貸借契約（平成29年度締結）5年更新（令和4年4月1日～令和9年3月31日）
契約内容	建物2,258.45㎡の貸付け
貸付料	無償
その他	・笠間市が「筑波海軍航空隊記念館の設置及び管理に関する条例」を制定（平成29年9月15日施行） ・指定管理者：株式会社プロジェクト茨城（平成30年度から笠間市より受託）

(3) 利用状況

- 利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に大きく落ち込んだが、回復基調にあり、令和4年度の利用者数はピーク時の93.5%となっている。

【利用者数の推移】

(単位：人)

年度	H30 (ピーク)	R1	R2	R3	R4	R4/ピーク
利用者数	19,257	17,809	6,658	13,086	18,024	93.5%
うち団体	5,547	4,251	426	585	1,690	30.4%

(4) 経営状況

- 施設は、企画展や特別展の開催、フィルムコミッションの活用等により誘客促進を図り収入を確保している。
- 令和2年度から令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数は減少したものの、維持管理費等を節約するなど歳出を抑えることで対応している。

【収支の推移】

(単位：千円)

年度	歳入計 (A)		歳出計 (B)			収支 (A-B)	
	うち指定管理料 (笠間市)	うち利用料収入	うち人件費	うち維持管理費			
H30	34,527	6,000	7,405	34,048	14,249	2,285	479
R1	21,449	6,056	6,316	22,205	13,154	3,101	△756
R2	15,874	7,901	2,282	15,046	8,254	2,232	828
R3	15,702	6,721	3,533	15,463	8,655	2,083	239
R4	20,307	5,601	6,959	20,688	10,488	2,003	△381
平均	21,572	6,456	5,299	21,490	10,960	2,341	82

※施設は、笠間市が指定管理者制度により運営しているため県負担なし。

【大規模修繕の推移】（10,000千円以上の修繕を記載）

- 県と笠間市で取り交わしている、公有財産使用貸借契約書第6条の規定により、維持保全に要する経費はすべて笠間市の負担とするとしている。なお、大規模修繕（増改築を含む）については、市が県と協議のうえ費用負担を決定することとしている。
- 主な実績としては、施設の老朽化に伴い、雨漏り修繕工事を実施した。
- 今後も施設の老朽化に伴う定期的な屋上防水等の工事が想定されるため、計画的に修繕等を実施する必要がある。

（単位：千円）

年度	修繕実績額	修繕内容	うち県負担分
H29	114,297	記念館改修等整備（耐震工事・耐震診断等）	56,853
H30	-		-
R1	-		-
R2	-		-
R3	13,068	旧司令部庁舎雨漏り修繕	6,286
R4	-		-
計	127,365		63,139

※このほか、指定管理者のクラウドファンディングにより、R3年度に旧司令部庁舎の入口扉等改修を実施。

(5) 周辺エリアの動向、他県の類似施設の状況

- 水戸の梅まつりや笠間の菊まつりなど地域のイベントと連携し、誘客や周遊観光の促進に努めているほか、大山湖畔公園（鹿島海軍航空隊跡・美浦村）との共同企画を行うなど、広域連携による魅力づくりにも取り組んでいる。

2 課題

- 施設を保存・維持していくために、地域交流センターなどの近隣施設、大山湖畔公園や予科練平和記念館（阿見町）などの類似施設と連携を図り、利用者の増加に努めていく必要がある。
- 旧司令部庁舎は建築から85年が経過しており、文化財として保存・活用していくためには定期的な修繕など、適切な維持管理に努めていく必要がある。

3 対応方針

現所有者	今後、想定される所有者	今後の取組方針（案）	該当の有無
県	県	現行の管理手法での施設運営の合理化など	○
		民間活力の導入による運営改善（施設リニューアル、P-PFI等）	
	市町村	譲渡・譲与	
	民間	譲渡	
	—	廃止・休止	

【方針】

- 現行の運営手法を継続し、長寿命化も見据え、市や周辺地域との連携を図りながら効率的な施設運営と魅力向上による誘客促進に努めていく。

【理由】

- 当施設は笠間市の地域教育及び文化の向上、地域振興の目的のほか、戦争の記憶を語り継ぐ施設としての役割を担っており、本県における重要な歴史的遺産施設の一つとして利用されている。
- 平成30年度以降、笠間市が管理運営を行い、指定管理者において、特別展示や講演会の開催、フィルムコミッションの活用など施設の魅力度・認知度向上や保存・維持に向けた様々な取り組みを実施しており、更なる集客と施設の効率的な運営を図っているため。

公の施設等に係る運営評価等調書

施設名	筑波海軍航空隊記念館	所管課	営業戦略部営業企画課
-----	------------	-----	------------

1 施設概要

所在地	笠間市旭町654番地	整備年月	平成30年6月
設置の根拠法令等	筑波海軍航空隊記念館の設置及び管理に関する条例（笠間市）		
設置目的	歴史への理解を深め世界の恒久的平和の実現に役立てるとともに地域の教育及び文化の向上並びに地域振興を図るため		
事業内容	地域の戦史に関する資料等の収集、保管及び展示		
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> 旧司令部庁舎（旧管理棟） 敷地面積：1,850㎡ 延床面積：1,684.86㎡、鉄筋コンクリート地上3階建 展示館（旧検査棟） 敷地面積：1,092㎡ 延床面積：573.59㎡ 鉄筋コンクリート地上2階建 		

2 管理者

(令和5年7月1日現在)

管理区分	貸付契約、指定管理	管理者名	笠間市、株式会社プロジェクト茨城
体制	5人内訳	常勤職員	2人、非常勤職員 3人

3 利用状況

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用者数(人)	目標値	30,000	35,000	40,000	30,000	30,000
	実績	19,257	17,809	6,658	13,086	18,024

4 施設運営に係る事業費

(千円)

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
収入	指定管理料	6,000	6,056	7,901	6,721	5,601
	使用料収入	7,405	6,316	2,282	3,533	6,959
	その他	21,122	9,077	5,691	5,448	7,747
	合計①	34,527	21,449	15,874	15,702	20,307
支出	人件費	14,249	13,154	8,254	8,655	10,488
	管理運営費	2,285	3,101	2,232	2,083	2,003
	その他	17,514	5,950	4,560	4,725	8,197
	合計②	34,048	22,205	15,046	15,463	20,688
収支(①-②)		479	△756	828	239	△381

(千円)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
大規模修繕費	0	0	0	13,068	0

※10,000千円以上の修繕費

5 運営上の課題と対応

課題	対応
<p>○ 施設を保存・維持していくために、地域交流センターなどの近隣施設、大山湖畔公園（鹿島海軍航空隊跡・美浦村）や予科練平和記念館（阿見町）などの類似施設と連携を図り、利用者の増加に努めていく必要がある。</p> <p>○ 旧司令部庁舎は建築から85年が経過しており、文化財として保存・活用していくためには定期的な修繕など、適切な維持管理に努めていく必要がある。</p>	<p>○ 現行の運営手法を継続し、長寿命化も見据え、市や周辺地域との連携を図りながら効率的な施設運営と魅力向上による誘客促進に努めていく。</p>

※長寿命化の推進、資産総量の適正化、資産の有効活用の観点から記載すること。

(参考)

1 施設の位置図



2 施設の写真



3 施設の配置図（平面図）

